



3. レビー小体型認知症にみられる症状と適切な対応

認知機能の変動（発現パターンは一様ではなく、予測がたてにくい）頭がはっきりしているときとそうでないときの差が激しく、**頭がはっきりしている状態とボーとしている状態が1日の間や1週間、1か月の中で変動するのが特徴**です。

初期にはもの忘れなどの症状は目立ちませんが、「認知機能の変動」がおこると、頭の動き、注意や集中力が悪くなり、ボーとした状態になります。認知機能の変動に伴い、機能が回復したときに「今まで自分は何をやっていたんだろう」とご本人が気づくことがあります。



また、「言葉が出てこない」「着替えや歯磨きが出来ない」など、特定のことができなくなるという例もあります。

認知機能の変動への対応：介護者などの周囲の人は、認知機能の変動が生じることを念頭に置き、ご本人の頭の動きの状態を把握しておくことが大切です。

状態を把握することで、**大事なことは頭がはっきりしている時に伝える、ボーとしている時には「一人で歩かせない」「そばにいて見守ってあげる」などめりはりのある対応**が必要となります。



人によっては、認知機能が悪くなる前に「急にそわそわする」「テーブルを何度もコツコツ」などのサインがあらわれる場合があるので、



認知機能が悪くなると、料理やテレビのリモコン操作のような作業が難しくなります。こうした能力の維持には、**折り紙などが良いといわれています。簡単な作業でもふだんから続けることが大切です。**



幻視・見まがいがい・妄想：症状として、**見えないものが見えたり、見たものが違うものに見えたりする「錯視」**があげられます。また、それに伴い妄想や作話などが起こる場合もあります。

幻視：見えないものが見える：実際にはないものが、**本人には実在するものとして「ありあり」と見える（幻視）、これはレビー小体型認知症の特徴的な症状**です。見えるものは人により異なりますが、虫や小動物、人などが多く、動きを伴います。「あそこにいる」などと、**暗い場所や隙間を指す**こともあります。



そのほか、**聞こえるはずのない音が聞こえる「幻聴」**や**「人がいる気配」を感じることも少なくありません**。もの忘れが軽い人が多く、後になってもみえたものの様子を正確に覚えていることがよくあります。



見まがいがい：多くみられる症状に、**見まがいがい（錯視）などの錯覚**があります。目に入ったものがちがうものとして感じたり、また、周囲のものがゆがんだり、曲がって見えることもあります。日常の暮らしの中でも見まがいがいはありますが、それが強く頻繁にあらわれることがあります。

妄想：幻視や見まがいがえによる「思いちがいがい」が多くあらわれます。たとえば、「ハエがたくさん飛んでいるのが見えるため殺虫剤をまく」などです。また、「夫が見知らぬ女性と仲良くしている」など、**嫉妬妄想**がみられることがあります。

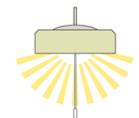


脱水や風邪、腹痛、便秘などにより幻視が多くなることもあるため、**身体の不調にも注意**しましょう。

幻視・見まがいがいへの対応＝まず、室内環境を整えましょう。

なかでも**室内の照明は**大切です。見まがいがいは暗い場所でおこりやすいため、**室内の明るさを統一し、蛍光灯を白熱灯に替える**などで、幻視や見まがいを減らす助けになります。

また、**壁に洋服をかけない、周囲から目立つものは置かない、壁紙の模様をシンプルなものに変えるなどの工夫も効果的**です。



安心できるような対応を！！＝アルツハイマー型認知症の人では、物忘れが強くみられるため、一時的なごまかしで対応する場合がありますが、**レビー小体型認知症では、はぐらかしたり、ごまかしたりすることは避け**ましょう。

幻視はご本人にとって現実のものとしてうつっています。まず、そのことを理解し、受け入れることが大切です。

×「何もみえない、錯覚だ」などと強く否定したり、感情的な対応はご本人が混乱するだけでなく「妄想」へ発展することもあります。**〇「悪さはしないから大丈夫」などと安心できるように対応**しましょう。また、**多くの幻視は近づいたり触ったりすると消えて**しまいます。

ご本人や介護者が近寄り、触ってみるのも良い方法です。

妄想への対応

妄想はご本人の思い込みが強いいため周囲の言葉で理解してもらうことはとても困難です。**妄想はイライラや怒りをともなうことが多い**ため、言葉ではなく、**優しく手を握ったり、軽く背中をトントンしてあげることで、心が落ち着く場合**もあります。家族や介護者が妄想の対象となった場合には、無理に関わらず、少し距離をとることで、妄想が軽くなることもあります。

※参考資料：監修：小阪憲司先生「レビー小体型認知症介護ガイドブック」から抜粋させていただきました。